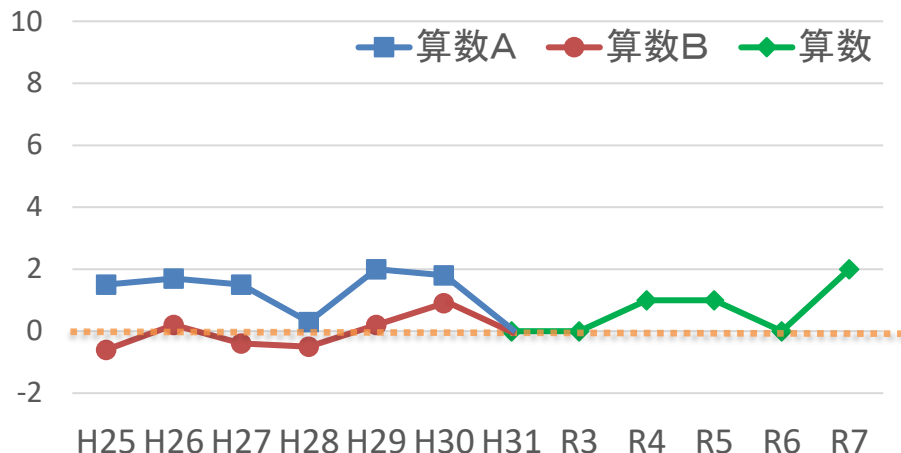


結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均並みである。

2 領域別の結果

学習指導要領の領域	県	全国平均
A 数と計算	63.3	62.3
B 図形	60.0	56.2
C 測定	55.8	54.8
C 変化と関係	57.2	57.5
D データの活用	63.0	62.6

○「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」の領域で全国平均を上回る。

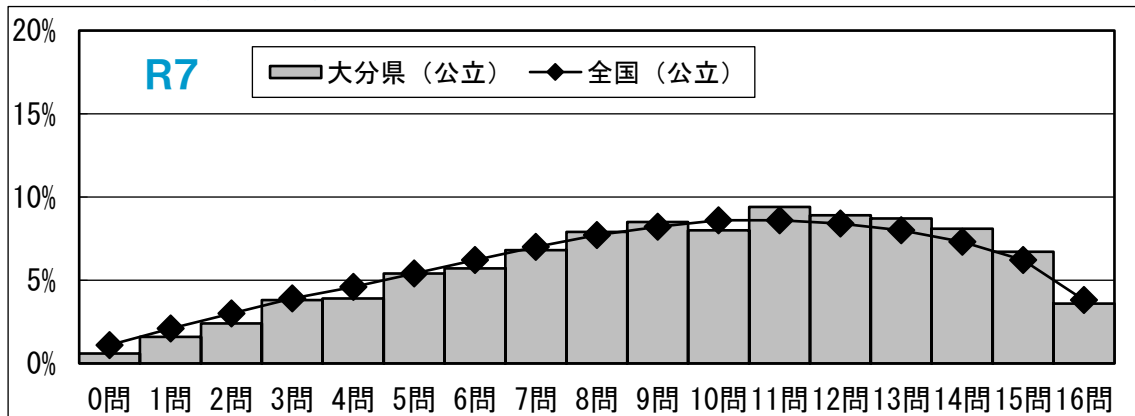
▲「変化と関係」の領域は全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	68.2	65.5
思考・判断・表現	48.9	48.3

○全ての観点で全国平均を上回る。

4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。

○正答数が全国平均以上(10問以上)の児童の割合は全国値を上回る。

□ 課題が見られた問題と指導の改善 正答率が低かった問題

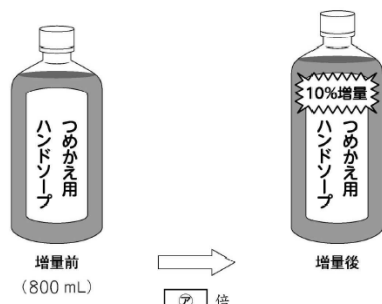
大問4(4)【平均正答率 大分県40.6% 全国40.9%】

「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題。

問題

家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。

上の⑦にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 0.1 2 1.1 3 10 4 110

解答類型

正答	2 と解答しているもの
誤答	1 と解答しているもの(反応率37.4%) 3 と解答しているもの(反応率14.6%) 4 と解答しているもの(反応率 2.1%)

指導の改善

【児童のつまづきを確認】

- 「増量後の量」が「増量前の量」の110%になることを捉えることができていない、又は、「増量後の量」が「増量前の量」の1.1倍と捉えることができていない。
- 「10%増量」について、「増量後の量」は「増量前の量」の10倍と捉えている。

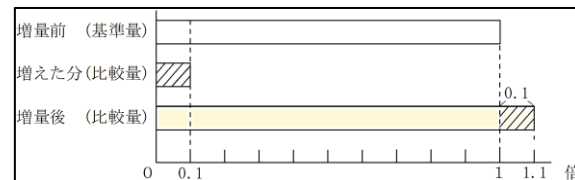
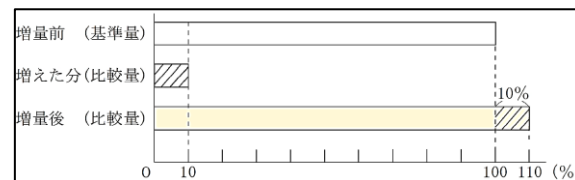
【学習指導のポイント】

示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるようにする。

○基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。

○本設問を使って授業を行う際には、「10%増量」と書かれている増量後のハンドソープの量が、増量前のハンドソープの量の何倍になっているのかを考え、説明する活動が考えられる。

①基準量を100%とした際の10%や110%に当たる比較量や基準量を1とした0.1や1.1に当たる比較量を下のように図に表す。



②「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして、図と式や言葉を用いて説明し、数量の関係を捉えることができるようにする。

※基準量の「1倍」に当たる量は基準量と変わらないことや基準量の「0.5倍」に当たる量は基準量の半分となることを捉え、基準量と基準量の「1倍」「0.5倍」「0.25倍」「0.75倍」に当たる量との大小比較に基づいて、基準量の小数を用いた倍に当たる量を捉えることができるようにすることも大切である。